

平成28年度 第3回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日時 平成29年2月14日(火)午後2時30分～午後4時00分

◇ 会場 県立久喜図書館 研修室

◇ 出席者 (1) 出席委員
田畑栄一委員 金子貞雄委員 深堀敬治委員
安藤正徳委員 杉山きく子委員 中村公雄委員
早川恭子委員 吉田征人委員 若松昭子委員
渡部貞一委員

(2) 図書館職員
【県立熊谷図書館】
代島館長 大嶋副館長 関副館長
荻原主席司書主幹 蓮見司書主幹
【久喜図書館】
及川館長 松田副館長 銭場教育主幹
佐藤司書主幹 佐藤担当課長 黒須主任

(3) 教育局職員
【生涯学習文化財課】
阿部副参事

◇ 会議次第
1 開 会 [久喜図書館 銭場教育主幹]

2 あいさつ 県立久喜図書館 及川館長

3 平成28年度第2回会議録報告

4 会議録署名委員の指名

会長が、田畑委員と金子委員を指名し、了承された。

5 会議の公開について議決

傍聴希望者が2名いることを報告。会長の指示で傍聴者を入室させる。

6 議 事

(1) 平成29年度当初予算案について

[熊谷図書館 大嶋副館長]

資料1に基づき、図書館管理運営関係予算、県立図書館関連事業予算の内容及び前年度比較について説明。

【質疑】

委員／図書館サービス運営費について、熊谷と久喜ではトータル予算で約2倍の差がある。熊谷分は説明にあった図書館司書のスキルアップのための講習会に使われるかと思うが、対象人員はどれくらいか。その費用は具体的にいくら含まれているのか。

事務局／図書館地区別研修会は、今年度は千葉県で開催しており、定員は100名である。埼玉県は前回平成16年度に開催しており、その時は9都県で90名の参加があり、今回も同程度の申請計画になると考えている。予算は、84万1千円を計上している。

委員／そうであると、熊谷図書館は久喜よりサービス運営費が大きい、その差は何か。

事務局／資料購入費については、各館で予算化しているが、熊谷図書館の分担分野が広いので、多くなっている。執行については熊谷図書館で一元的に行っていて、購入した図書のうち久喜図書館分は保管転換の手続きで移動している。

委員／2点質問する。まず、2の県立図書館関連事業予算の図書館資料相互貸借推進事業について。連絡車、協力車の運行业務委託の更新とあるが、単年度契約か、あるいは3年とか複数年の契約なのか。

もう1点は県立図書館再編整備事業について。事業の内容は、外部書庫と浦和分室の運営経費、そして旧浦和図書館の解体工事費ということだが、どちらがどれぐらいの割合なのか。

事務局／連絡車、協力車の契約は、2か年である。

再編整備事業の予算は、旧浦和図書館の解体工事費が2か年事業の2年目ということで、約3千6百万円を計上している。外部書庫と浦和分室運営経費は、残りの約1千7百万円である。

委員／そうすると、県立図書館再編整備事業は、旧浦和図書館の解体が終われば予算が下がるということか。

事務局／解体工事分はゼロになる。

委員／1の関連で子供読書活動推進・支援とあるが、特に力点を置いている事業を教えてください。

事務局／今年度の新規事業では、読み聞かせボランティア指導者を現在20名養成している。その方々が来年度から指導者として市町村へ出ていくということで、予算的には減っている。しかし、その成果が来年度は出ると考えている。

委員／この資料では、協議するのに内容が足りない。来年度予算については、今日の午後2時に記者発表があり、各項目の金額まで入った資料が記者に提供されているはずだ。先ほどの説明では工事なども1千万単位にな

っているが、予算内容を協議会で審議するのであれば、より細かい内容の資料が必要である。昨日までなら確かにこの程度の数字でしかたないが、今日は既に詳細な数字がオープンにされている。この資料で委員が意見を言うのは難しいと思う。

事務局／議会で審査中ということ踏まえながら、この時期にこの形式で毎年、報告を行っている。

会 長／協議会で個別経費の是非を審議するのはなかなか難しいと思う。これまでも、このような形式で報告がなされてきたかと思う。しかし、説明の際には話についていくのが大変だった。委員の意見にあったように、もう少し具体的な数字が出ていれば追いかけてやすいという気がする。次回の検討課題にしていきたい。

また、浦和分室の運営経費について伺いたい。現在の浦和分室はどのような状況で、今後は同程度で維持するのか、もっと拡充するのか、縮小するのか、その辺を教えてください。

事務局／来年度も同様の運営を予定している。熊谷図書館浦和分室の28年度の運営状況は、平成29年1月末までの数字で開室日数が220日、利用人数、入室人数が4,714人であった。利用内容は主に資料の貸出・返却、レファレンスの受付・回答で、レファレンスは、受付をして回答したのが979件であった。体制は2人が常時駐在している。今の時期、本館の開館は平日19時までだが、浦和分室は通年9時から17時まで、火曜から日曜まで開室し、祝日は休室となる。従って、本館に比べると開室日数はやや少ない。

会 長／予算としては、同程度の金額を計上しているのか。

事務局／浦和分室にかかる予算は基本的に通信費を計上している。資料費は全て本館で計上している。

事務局／少し補足すると、浦和分室は県立文書館の中にあるので、施設の経費がかかっていない。なお、人件費はかかるが、給与費であるので、図書館の予算には入っていない。

会 長／分室は開室して1年目なので、利用者が多ければ拡充の話も出てくるかと思った。浦和図書館がなくなってしまったので、何らかの形でサービスを継続していただければと思う。

委 員／来年度の目玉事業は、県立図書館サービス充実・強化推進事業という理解でよろしいか。その他、何か新しい事業を検討されているか。

事務局／新規事業としては県立図書館サービス充実・強化推進事業と県立図書館活性化推進事業の2つである。その他で、内容的に新しいものとしてサービス運営費の中の地区別研修の開催がある。

委 員／毎年、もう少しメリハリをつけることも必要かと思う。例えば、資料

収集に集中する年にするとか。

会長／2館体制になってまだ日も浅い。まずは新規事業を軌道に乗せていただき、その後、メリハリをつけるということも検討していただければと思う。

(2)「図書館と県民のつどい埼玉2016」の結果について

〔熊谷図書館 蓮見司書主幹〕

資料2に基づき、実施結果について説明。

【質疑】

委員／記念講演とビブリオバトルの間が2時間ぐらいあり、時間が空きすぎている。会場の設営等に時間がかかるのかもしれないが、もう少し短縮すると参加しやすいと思う。

ビブリオバトルで話をしていた学生達、非常に素晴らしい内容で発表をしていた。これを周知して広めていくことが、図書館の発展にも繋がると思い、とても素晴らしくて感動した。

副会長／講演会と展示、リサイクルを見た。講演会は講演者によって毎回スタイルが変わる。今回は座談会のような感じで少し時間が短いかと思ったが、テレビ等にも出演されていて、話が面白い方だと感じた。

いろいろな種類の図書館が集まっていて、埼玉県内の図書館の状況を知るにはとてもいい機会だと思う。今回は会場となった自治体の協力が大きかったと冒頭のあいさつから感じた。いつも文学館では、少し新鮮さに欠け、場所を押さえる大変さもある。時々、会場を変えるとその周辺の方々が新たに会場に来てくれるので、会場は固定せずに検討すると良い。北本市の広報により開催を知り参加したという方も、人数はそれほど多くないかもしれないが、会場の自治体の協力という点で意義深いと思う。

委員／統計は採れば良いというものではない。統計は、ある狙いがある、それぞれの項目を設けていると思う。統計を採った結果、狙いに対して結果はどうだったのか、課題は何が残ったのかというコメントがほしい。それから、数字に表れない意見、これも大変貴重ではないかと思う。その3点がやや足りないと思った。

事務局／今回は数字の部分のみを示したが、アンケート用紙には自由記述の部分もあり、その部分も示した方が良かったかと思う。

いろいろ感想をいただいたが、概ね好評であった。今後の課題はやはり広報の面、再三、指摘いただいて我々も努力はしているが、なかなか効果が表れないという部分がある。いくつかのマスコミに広報をかけたが、結果として取り上げてくれたのは朝日新聞だけであった。

こども読書活動の分科会については、毎日新聞に学校図書室の整備の

関係にからめて、報道いただいた。ただ、それが分科会の参加に結びつかなかった部分もあり、その辺が課題と思っている。それから、地元市との連携という話があったが、それは我々も非常に痛感したところである。地元市とはより一層タイアップしてイベントを開催していきたい。

また、今年度からツイッターを導入したので、つどいに関するつぶやきを行った。人数は限られていたが、その利用者にはアピールできたと思っている。

会 長／統計を見ると、毎年、参加者が少しずつ増えている。昨年度は雨模様で減っているものの、今年度は天気も良かったので昨年度に比べて70名ほど増えている。少しずつリピーターも増えて広がっているのだと思う。この事業がどんどん拡充されていけばよいと思う。

委 員／今回配布いただいた参考資料を見ると、埼玉県内の公立小学校だけでも1,190人の司書教諭、学校司書が配置されている。一方、このアンケートの回答者を見ると小中学生が7人、高校生が2人となっていて、このイベントについての関係者への働きかけが足りないのではないかと思う。

会 長／高校の図書館の展示はいつもとても人気があり人も多い、にもかかわらず、実際の入場者数は高校生がとても少ない。中学生も、大学生も多いとは言えず、ほとんどが社会人である。その辺をこれからどのようにアピールしていくかが課題である。学校図書館にももう少しアピールしていく必要があると思う。

(3) 県立久喜図書館の障害者サービスについて

[久喜図書館 佐藤司書主幹]

資料3に基づき説明。

【質疑】

委 員／音訳者養成講座で新規に音訳者を育成し登録しているとのことだが、報償費を支払っているのか、あるいは無いのか、その辺りを教えてほしい。

事務局／報償費を支払っている。基本は出来高払いのイメージで考えていただければと思う。例えば、対面朗読だと1時間読んで800円という形である。別に交通費は出しておらず、かなり遠い所から来ていただいている方もおり、ほとんど交通費だけになってしまう方もいる。

録音図書の場合は出来上がった録音図書1時間に対しての支払いで、読んだ方にはいくら、デイジーを作った方にはいくらという形である。例えば、単行本のあまり厚くない録音図書であるとおよそ6時間で、少し難しい物だと10時間ぐらいの長さになり、計算式に基づいて支払っ

ている。

デジ制作の報償費は、読んだ方、読みの校正をした方、デジを作った方、デジの校正をした方と4工程に支払いをしている。例えば10時間の物を製作すると全体で7万2千円のお金がかかり、点字本だとページ数によるが、1タイトルを作るのに5万円前後かかる。

委員／障害者の方の読書の喜びや読書のチャンスを増やすためには、音訳者の育成などはとても大事だと思う。先ほどの説明にあったように若くて、理解力があって、時間がある方に来てもらうには、ある程度の報償費は必要かと思う。予算化をしてたくさんの方にボランティア活動の精神を養ってもらうことは大変大事かと思うので、推進してほしい。

委員／登録利用者は増えているのか、横ばいなのか。また、サービスが必要な人に対しては、どのような案内をしているのか。発達障害の方にはどのように案内を行っているのか。

事務局／登録者の数は利用者の高齢化が進んでいて、少しずつ減っていた。ところが、発達障害の方などの登録を開始したところ少しずつ登録が増えてきて、現在は約570人で以前の利用者数に戻った状況である。ただ、視覚障害者だけを見ると高齢化が進んでいて、人数は落ちてきている。

発達障害の方々への案内は、視覚障害者の方も含めて、直接にPRするのはなかなか難しい。もちろん何もやっていないのではなく、今特に力を入れているのは、一般の方、例えば、家族、知人、福祉関係者、図書館の方、そういう方に対するPRである。図書館にポスターを貼ったり、チラシを配布したり、ウェブサイトやツイッターを利用したりして、まずは障害者の周りの方々へPRすることが大事であると考えている。

また、録音図書があることや、郵便で借りられるということを知らない方が多いので、そうした基本的なことをPRすることが大切だと認識している。

会長／今の説明で気になったのが、視覚障害者の利用者の高齢化が進んでいるということ。視覚障害者全体の数が減っているわけではないとすると、障害を持っている若い人があまり登録していないということか。

事務局／確かに、国が出している数字では視覚障害者で障害者手帳を持っている方の数は約30万人である。その数はほとんど変わっておらず横ばいであるが、私の実感としては利用者の高齢化が進んでいるように思われる。盲学校などに入っている子供達は1学年10人程度で、たくさんいるというわけではない。ただし、障害者手帳を持っていないが目が悪いという人もいて、発達障害の方は手帳を持っていない方がほとんどである。当館では障害者手帳の有無に関係なく、実際の読書に困難があれば登録できるようにしているが、国の数字が実際を反映していないのでは

と考えている。

会 長／視覚障害者でなくても徐々に高齢化は進んでおり、実際には本などが読みづらい方々が増えてくる。対面朗読をお願いすれば、高齢者ということでも受け付けてもらえるのか。

事務局／目が不自由になり小さい文字が読みづらいとか、本をそのままでは読めないとか、こちらで確認できれば登録でき、対面朗読や録音図書を利用することができる。

会 長／障害者手帳などがなくても大丈夫ということか。

事務局／そうである。

会 長／これからはそういう人達の利用が増えてくると思う。その辺のサービスを充実発展させていきたい。

また、対面朗読において熊谷図書館と久喜図書館でかなり実施時間が違うのはどういう理由か。

事務局／対面朗読の実施時間は駅からの距離で違ってくると説明できるが、熊谷と久喜はそれほど大差ない。理由としては、久喜図書館に障害者サービス担当があるので職員がすぐそばにおり、例えば、対面朗読中にすぐ資料を準備するなど、まめに対応できるということが良いのかと思う。熊谷エリアはあまり市町村の図書館が障害者サービスを行っていないので、熊谷エリアに住んでいる障害者の方は熊谷図書館に来ていただけたらと思っている。

事務局／久喜図書館は障害者サービスのセンター機能を持っているということで、担当職員が6名いる。熊谷図書館には障害者サービス担当はいない。本来、市町村にこのようなサービスをやっていただきたく研修を行っているが、市町村もそれほど人数がいるわけではないので、そのサービス担当を作ることができない。そのため、障害者サービス担当がある久喜図書館に集まってきていると思われる。

埼玉県の考えとしては、市町村にサービスを移していくということが基本であるが、市町村にもいろいろな事情があり進んでいかないという状況である。

事務局／補足だが、熊谷図書館にも対面朗読に毎週来ている方がいるが、昨年度は熊谷図書館が5か月間休館したので、少ない数字となっている。

会 長／いずれにしても、これから高齢者が増えてきて、いろいろなところで障害が出てくる方がいると思う。このサービスは是非発展させていきたい。

(4) その他

事務局、委員それぞれなし

議事終了

7 あいさつ 県立熊谷図書館 代島館長

8 閉会 [久喜図書館 銭場教育主幹]
平成29年度の第1回協議会は、7月下旬に開催する予定。

会議録署名

会 長 _____ 印

委 員 _____ 印

委 員 _____ 印